

ビール大麦の新品種候補系統「九州二条9号」の育成経過

*吉田智彦・**伊藤昌光・浜地勇次・古庄雅彦・***篠倉正住・吉野 稔
 (*九州大学・**四国農業試験場・福岡県農業総合試験場・***福岡県病害虫防除所)

Tomohiko YOSHIDA, Masamitsu ITO, Yuji HAMACHI, Masahiko FURUSHO, Masazumi SHINOKURA
 and Minoru YOSHINO: Breeding Procedure of a Promising Malting Barley Line, "Kyushu Nijo 9"

西日本のビール大麦の基幹品種の「あまぎ二条」や「ニシノゴールド」は、近年、品質不良や整粒歩合の低下が生産上の障害になっている。そこで福岡県農業総合試験場では、良質・多収・大麦縞萎縮病抵抗性の系統「九州二条9号」を育成した。

1. 育成方法

1981年4月に、(はるな二条×倉系2660)のF₁を母とし、関東二条19号を父として交配をした(第1表)。系譜(第1図)は、縞萎縮病抵抗性遺伝子が数回の戻し交配で導入されたことを示している。

第1表 交配親の特性

品種名	稈長	穂長	成熟	萎縮	倒伏	外観	麦芽エキス
はるな二条	中	短	早*	弱	中	中中	多*
倉系2660	中*	中	中	弱	強*	中下	少
関東二条19号	長	長*	晩	強*	中	中上*	中

注) *印の形質を九州二条9号に導入した。



第1図 九州二条9号の系譜

注) *: 縞萎縮病抵抗性遺伝子源

以後系統育種法で選抜固定を図り(第2表)、系統適応性検定、特性検定、生産力検定、各県の奨励品種決定調査及び合同品種比較の各試験に供試した(第3表)。

2. 結果及び考察

育成地での成績(第4, 5表)によると、裂皮や凸腹粒が多発した1986年度にこれらの障害粒発生が少なく、このことが九州二条9号と命名し、配布する第一の要因となった。

本系統は整粒歩合が高く、原麦粒の外観品質が良く、収量はあまぎ二条と同程度であった。麦芽品質はあまぎ二条より高く、ニシノゴールドに近かった。

以上のことから本系統は既存品種の欠点を補う系統であり、西日本のビール大麦作地帯での栽培に適すると思われる。なお、本系統は1990年11月に二条大麦農林14号「アサカゴールド」と命名された。

第2表 選抜経過

	1981年4月 (交配)	1981年 (F ₁)	1982年 (F ₂ ~F ₃)	1983年 (F ₄)	1984年 (F ₅)
供試数		40粒	2千個体	3千粒	119系統
選抜数		2千粒	7千粒	119穂	55系統
					1系統

第3表 収量試験や系適・奨決等の実施状況

年度	1984	1985	1986	1987	1988	1989
生産力検定	予検	予検	予検	生検	生検	生検
配布数	特検	2	2	7	6	3
	系適		1	4	1	—
	奨決				10	17
	合比		5	5	8	8
						—

第4表 栽培試験成績(1987~'89年度3か年平均)

品種名	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	赤か び病	うどん こ病	縞萎 縮病
九州二条9号	5.22	94	7.1	やや強	やや弱	極強
あまぎ二条	5.25	96	6.6	やや強	中	弱
ニシノゴールド	5.22	93	5.9	やや強	やや弱	極強

第5表 生産物調査成績(1987~'89年度3か年平均)

品種名	子実 収量 (Kg/a)	同標 準比 (%)	整粒 歩合 (%)	裂皮 粒 (%)	凸腹 粒 (%)	外観 品質 (%)	麦芽 総合 評価 点
九州二条9号	44	100	68	3	5	中上	64
あまぎ二条	44	100	57	1	12	中中	54
ニシノゴールド	39	88	60	30	2	中中	66

注) 麦芽評価は1985~'88年度平均で栃木農試栃木分場が分析。裂皮・凸腹粒は多発した1986年度の値。